みんなの広場

ところざわの文化財 歴史再発見 ⑪

中心市街地の歴史的建造物

所沢の中心市街地を形成してきた通称「銀座通り」周辺は、江戸時代に宿場町として、また周辺農村からの農産物の集散地として賑わい、商家の建ち並ぶ町を形成していました。

齋藤家の見世蔵

明治時代に入ると、織物を取り引きする買継商の活躍により、町は一層の活況を呈し、意匠を凝らした「見世蔵（土蔵造りの店）」が次々と建てられました。

しかし、戦後の高度経済成長期以降、商業の中心は所沢駅周辺へと移り、また市庁舎をはじめとする公共施設も並木地区へ移転し、かつての賑わいも失われていきました。

このため、周辺商業の活性化や土地利用の高度化を図るため、平成７年に「中心市街地街並み整備計画」が策定され、高層の再開発ビルが続々と誕生しました。一方で前述した見世蔵をはじめとする歴史的建造物は、建て替えにより次第にその姿を消すことになったのです。

そこで平成９年度より「中心市街地歴史的建造物調査」を開始し、区域内に所在する歴史的建造物の現状を把握するとともに、消えゆく建物の記録保存を行うこととしました。

調査開始当初140棟以上あった歴史的建造物（建築後概ね50年以上経過した建物）は、現在までにその約半分が失われてしまいました。しかし、それでもまだ現役として活躍している建物もあります。

本紙11月号で紹介した明治天皇行在所跡の齊藤家の見世蔵は、建築年代が江戸時代幕末まで遡ると考えられ、現在もその存在感をしっかりと示しています。また、平成16年度には、取り壊しが予定された２棟の商家と１棟の住まいの建築部材を解体保管しました。所沢の歴史を伝える大切な資料として、将来の復元に備えています。

街の写真館

▶創立60周年の所沢中学校、卒業生は2万名を超えました。みんなでついた「卒業祝いもち」。3月9日㈮／所沢中学校

◀金属製のポールを投げて競う「ペタンク」さわやかな１日を過ごした「高齢者ニュースポーツ大会」。3月１日㈭／北中運動場

▲絶好の観測日和で、月のクレーターや土星の輪もはっきりみることができました。地元の企業の協力を得て行われた「天体観望会」。（撮影／市民カメラマン・津田資雄）2月26日㈪／牛沼小学校屋上

一口メモ 防犯

～新入学に向けて～

各地域では、子どもを犯罪から守るため、パトロールや通学路での見守り活動が行われています。

被害にあわないためには、お子さん自身が注意することも大切なことです。新入学を迎え、ご家庭でお子さんやお孫さんと一緒に話をしてください。

また、地域の皆さんには、下校の時間帯にあわせた庭の掃除や散歩、買い物などの際にご近所に顔を出し、出来る範囲で子どもたちを見守る活動にご協力をお願いします。

★次のことに注意をしましょう★
- 知らない人にはついて行かない
- １人では遊ばない
- 危険な場所には行かない
- 遊びに行くときは、「だれとどこで何時まで」遊ぶのかを家の人に言ってから出かける
- 防犯ブザーを持つようにする

問い合わせ　防犯対策室（☎2998-9090・FAX2996-0015）

はつらつ野老（ところ）っ子

秩父路の魅力を伝えたい

飯野　頼治さん（日吉町在住）

長寿社会となり健康志向の高まりから、山歩きやウォーキングで余暇を楽しむ人が増えています。今回のところっ子は、気ままに散策を楽しんでもらうためのガイドブック『地図で歩く秩父路』を出版した飯野さんをご紹介します。

飯野さんは秩父の高校で32年間、地理の教諭として教壇に立ちました。退職後は、テントに宿泊をしながら歩いて、177日間をかけて念願の日本１周の旅を実現しました。「山の中で熊に遭遇したこともある」と聞かせてくれました。2004年には、この体験を基に旅のエピソードなどをつづった『旅は歩いて／日本１周野宿紀行』を出版しています。

石仏との出会い

歩いてゆっくりと旅をすることが大好きな飯野さんが、秩父路のガイドブックの執筆を手がけたきっかけは、秩父のさまざまな魅力をたくさんの人に伝えたいという想いからでした。

「秩父地方は、自然・歴史・文化・民俗のそれぞれに重みがあり奥の深い風土を持ってる」とその魅力を熱く語ってくれました。

このガイドブックには、市町村が発行する詳細図を基に作成した手書きの地図や散策路が掲載され、各コースには起点と終点の交通ルートや所要時間も入っています。また、散策しながら土地の人から集めた情報やコラムなど、秩父の情報が盛りだくさんで、愛情のこもった一冊に仕上がっています。

飯野さんは、あらゆる要素の詰まった秩父の資源を保護活用するために、ＮＰＯ野外調査研究所に所属し、秩父全域を博物館にして所沢をはじめ西武鉄道沿線の人たちにも楽しんでもらうために『秩父丸ごと博物館（エコミュージアム）』事業にも参画しています。

「秩父の緩やかな峠道や山里を歩いていると、野にたたずむ石仏が旅人をやさしく迎え、山里で出会ったお年寄りが、心温まる昔の話を聞かせてくれる」と散策の楽しさを話す飯野さん。忙しい世の中だからこそ、こうした穏やかな時間が大切なのかもしれません。

皆さんも人に優しい秩父路を歩いてみませんか。

レッツボランティア

【ふれあい配食ボランティア活動】
～お弁当が人と人をつなげる～

この活動は安否確認が必要な人の見守りや、人と人とのつながりを育むことを目的としています。いつまでも安心して自宅で生活していくことが出来る地域づくりを目標に、社会福祉協議会が取り組んでいます。具体的な活動としては、地域のボランティアや民生委員など、さまざまな方の協力を得ながら、市内の単身高齢者・日中単身高齢者・高齢者夫婦世帯および障害者世帯の皆さんにボランティアがお弁当（有料）を手渡しでお届けしています。

現在、500人ほどのボランティアが市内の各地域で活動しています。お届け先や活動頻度は地域によって異なりますが、多くのボランティアは月に１～２回の活動で、１回あたり３～５件のお宅に徒歩や自転車でお届けしています。お弁当をボランティアの手から利用者の手に渡すそのひとときを、ボランティアも利用者も楽しみにしています。

現在、社会福祉協議会ではこの活動に参加してくださるボランティアを募集しています。お弁当をお届けすることを通じて、身近な地域で新たな出会いや発見の楽しさ、広がる支えあいの輪を感じてみませんか。このような地域活動が、だれでも安心して暮らせるまちづくりにつながっています。

お弁当の手渡し

配食ボランティア活動やその他ボランティア活動に関心のある方は、お問い合わせください。

問い合わせ　所沢市社会福祉協議会（☎2939-0030・FAX2925-3419）

誰でもエッセイ

テーマ　おふくろの味

母のみそ汁

南住吉・宮下　広子

水を入れたなべに煮干を数匹。それが母の日課でした。家族のために、いつもみそ汁が用意されていました。

結婚して十数年たったある晩。ちょうど田舎に帰っていた私に、母はこんな事を尋ねました。

「結婚式の１か月前から、毎日みそ汁の中身を変えてたの知ってた？」私は、全く気づかなかったので、「知らなかったよ」と言いました。すると母は「やっぱりね」といって小さく笑いました。

知恵を絞って、いろいろな材料の組み合わせを考えても、とても30種類も思いつきません。母親とは本当にありがたいものだと身にしみて感じます。おかげ様で『今』があるのですから。

親を越えることなど到底できませんが、「私は子どもたちに何かを伝えられるだろうか」としみじみ思った夜でした。

おふくろの味

並木・島田　敬子

母は、本当に料理の上手な人です。きんぴら、白和え、炊き込み御飯など。中でも五目ずしは絶品です。手際の良さは、魔法みたいにあざやかでした。私もまねをしてみますが、なかなか母の味には近づけません。

ふと思います。娘たちが「おふくろの味は」と聞かれたとき何と答えるのでしょうか。何か１つでも私の味を娘たちも受け継いでくれればうれしいのですが。

五目ずしの上手な母も今年で92歳。お台所にも立たなくなりました。お母さん、もう一度五目ずし食べたいな。

さつまだんご

西狭山ヶ丘・肥沼　秀夫

私は、今でも時々夢をみる。それは、おふくろが木鉢でさつま芋の粉をこねている後ろ姿である。

やや使い込んだ手ぬぐいを姉さんかぶりにして、たすきがけにもんべ姿で、時折片手で額の汗をぬぐっていたのがくっきりと浮かび上がってくるのだ。

大きく蒸気をあげた蒸しかごの中へ握り寿司のような形にして生地を次々入れていくのだが、その素早さには、驚いたものだ。「ちっちゃいころからやってんからよう」と母はいつも笑って答える。

出来上がっただんごを大きなざるに入れて、茶道具とともに、しょいかごに納め、やかんに茶をいっぱい詰めると「さあ早く畑へ持ってけ」と私の方に差し出す。茶畑につくと私を見つけた父が「さあ、お茶にしてくらっしゃいよ」と叫ぶ。

数本の母の指の跡がついただんごはうまかった。

母のつくるドーナッ

南永井・井上　みどり

私の小さいころの思い出です。はじめて作る母のドーナツ。私はうれしくて型抜きのお手伝いをしました。こんがりと揚がった少し固めのドーナツはとてもおいしかったです。

私が子育てしていたころもおやつと言えばドーナツでした。おなかをすかした子どもたちには、何よりのおやつだったと思います。

娘との会話の中で「おふくろの味」というテーマでママのドーナツのことを書いたのよと話しました。いつの間にかそう思うようになっていたんだなと、そのころのことを思い出しました。

私のドーナツの原点は、母のドーナツです。母も私と同じような気持ちだったのでしょう。母は、82歳になりました。

次回のテーマは「温暖化」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「温暖化」▶締め切りは４月９日㈪必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係◎Ｅメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）も可（アドレスが変わりました）。